

2025卒

就職活動スケジュール 徹底解説

採用企業における
インターンシップ重視の姿勢が鮮明に

2025卒（2023年6月時点で学部3年生／修士1年生など）の就職活動は採用スケジュールの多様化／早期化が進み、不透明感が増しています。25卒予定の理系学生の就職活動スケジュールはどのような日程になるのか。25卒就活生が注意すべきポイントとは——本記事ではその展望を徹底解説します。

**政府推奨スケジュールは
昨年同様、採用情報解禁は
2024年3月**

2022年11月に政府と経済界は就職活動日程に関する方向性を確認し、「25年春入社（25卒）までは現行ルールを維持する」という方針を決定しました。

現行（2024卒）の基本的な就職スケジュールを改めて確認すると、

まず修士1年／学部3年の夏から冬にかけてインターンシップが実施されます。その後、本採用の選考活動が本格的にスタートするのは翌年3月1日からとなっています。6月1日から企業の採用選考（面接や筆記試験など）が解禁となり、選考通過者に対して随時内々定が出される、というのが政府推奨スケジュールの大きな流れとなります。

**採用直結型インターン・
早期選考・通年採用など
選考プロセスの多様化が進む**

前述の就職活動スケジュールはあくまで政府推奨の日程であって、実際はこのスケジュールより早期に採用活動を行う企業が多くなっています。現在でも、採用直結型インターンシップを行う企業や、秋から冬にかけて面接を実施して早々に内々定

を出している企業など、早期選考を行う企業は年々増加傾向にあります。特に直近では採用活動の早期化が一段と加速し、2023卒の就職活動では修士2年／学部4年の5月末までに72.9%（前年比9.6ポイント増）の学生が内定を受諾しているという調査結果が出ています（理系ナビ調べ）。そのため、早期からしっかり情報収集に取り組むことが重要といえるでしょう。

**オンライン就活が浸透した
一方で、オフラインへの回帰も**

コロナ禍で就職活動のスタイルは激変しました。その筆頭はオンライン就活の浸透が挙げられるでしょう。面接に関しては一次・二次面接だけでなく、最終選考までWEBのみで完結させた企業もありましたが、一度も双方が実際に会うことなく、内

2025卒 就活スケジュールの見通し

昨年度の動きを参考にした2025卒向け就職活動スケジュールの大きな見通しです。企業の選考活動時期は多様化しているため、志望企業・業界の選考スケジュールは個別にリサーチしましょう。



定まで至ったケースでは、企業、学生ともにマッチングに対する不安を抱いている事例も少なくありませんでした。

コロナ禍が落ち着いてきた昨今でも、説明会や初期選考などはオンラインでの実施が主流となっています。その一方で、現地開催のインターンシップに参加した就活生からは「現地の雰囲気や社員の働き方を間近で

感じられるのは大きい。オンラインで得られる情報は限定的」と、オフラインで得られる情報の密度を評価する声が聞かれました。採用企業としても、オフラインで学生と接することで相互理解を深めたり、提供できる情報量が増えることを期待しているケースも多く、オフラインでの選考やイベントは社会情勢を見ながら徐々に増えていくと思われます。

**コロナ禍やウクライナ情勢の
就職市場への影響は**

コロナ禍により日本経済は大きな打撃を受け、さらにウクライナ情勢の影響によるサプライチェーンの寸断、エネルギー価格の高騰、円安によるインフレ進行なども大きな懸念事項となっています。世界的な景気動向の見通しは予断を許さない状況

で、すでにアメリカではGAFAMを筆頭とするテック系企業やグローバル金融機関で人員削減を進めているケースが増えています。

とはいえ、プラス思考でとらえれば「先に就職した先輩達よりも、今後の経済の在りようを見極めたくうえで業界・企業を選べる」という考え方もできます。コロナ禍でも業績を伸ばした業態・企業は少なくないで

すし、一時的に業績が悪化したとしても中長期的には大きなポテンシャルを秘めた企業もあるので、必要以上に悲観的にならず、業界・企業研究に取り組みましょう。

さらなる就活早期化で高まる インターンシップの重要性

理系学生は卒業年次に学業が忙しくなるケースが多いため、就職活動が本格化する前に学業や研究、就活準備などを可能な限り進めておくことが望ましいでしょう。早期に内定を獲得できれば問題ありませんが、修士2年／学部4年の夏以降も就職活動に取り組む必要が出てくると、学業への影響はさらに大きくなってしまいます。

また、近年は早期選考や通年採用を実施する企業が増えているため、就職活動を円滑に進めるためには早めに行動を起こす必要があります。選考プロセスにおいてインターンシップを重視している企業が増加しているため、できる限り修士1年／学部3年の時点でのインターンシップ参加を推奨します。インターンシップは仕事や会社についての理解を深めら

れるため、経験者は本選考での志望理由が明確となり、自己分析も深掘りできている傾向があります。さらに、参加学生に対して優先的に早期選考情報を提供したり、そのまま採用選考を実施するケースもあるため、参加メリットは少なくありません。

とはいえ、現時点では「どの業界／職種を志望すればいいのかかわからない」という方も少なくないでしょう。そういったケースでは、少しでも関心を持ったインターンシップに参加してみましょう。インターンシップは仕事や会社について、多くの判断材料を集められるので、自身の適性や本当にやりたいことを見極める絶好の機会です。仮に「全然イメージと違った、自分には合わないと思った」といった結果でも、今後の行動指針を決めるうえで貴重な情報を得られるはずですよ。

すでに多くの企業で2025卒向けインターンシップのエントリー受付を開始しています。最近はWEBインターンシップや、短期の1dayインターンシップを実施する企業も増加しており、参加のチャンスは広がっているので、みなさんも

まとめ

現在進行中の2024卒就職活動でも、各企業は前年度から採用スケジュールや選考プロセスの変更を行なっています。インターンシップ実施時期やプログラム内容などはまだまだ改善の余地が大きいと感じている企業担当者も多く、現状を分析したうえで2025卒就活における選考プロセス、スケジュールの見直しを行う企業は少なくないでしょう。繰り返しとなりますが、25卒就活生は各企業が発信する最新情報を早期からチェックし、行動計画を考えることが一層重要となります。就職活動が本格化するまでの時間を活用し、社会についての理解を深めたり、自身のスキルアップに努めたりと、時間を有意義に使ってください。「自分が将来どうなりたいのか」「そのために何をすべきなのか」いまから考えてみてください。

『理系ナビ2025』で興味のあるプログラムを探してみてください。就職活動が本格的に始まるまでにイ

ンターンシップを活用し、自分の適性や社会に対する理解を深めてみてはいかがでしょうか。



2025卒 就活のチェックポイント



CHECK!

1

政府推奨就活スケジュールは 前年から変更なし

25卒対象のインターンシップは2023年夏から冬にかけて実施。就職情報解禁は2024年3月、面接解禁は6月から（政府推奨スケジュール）。

CHECK!

2

早期選考を行う企業は増加傾向

2023卒の就職活動では修士2年／学部4年の5月末までに72.9%（昨対9.6ポイント増）の学生が内定を受諾。早い企業は前年の秋から採用活動を開始。25卒就活では基本スケジュールにとらわれない早期選考がさらに増加か。

CHECK!

3

オンライン就活からオフラインへの揺り戻しも

会社説明会や初期の面接などはWEBでの実施が主流に。インターンシップもオンラインプログラムが多いものの、一部企業ではオフラインに戻す動きも見られる。

CHECK!

4

世界経済の動向は不透明。 就活市場への影響を注視

国内の就職内定率はコロナ禍以前の水準に迫るも、景気動向は予断を許さず。ウクライナ情勢の影響でサプライチェーン寸断やエネルギー高騰などのリスクも浮上。社会情勢を注視し、中長期的視点で企業・業界研究に取り組むべき。

CHECK!

5

企業選考における インターンシップ重視の傾向はさらに強まる

採用直結型のインターンシップを実施する企業が増加。情報収集の面でもインターンシップ参加は就職活動における大きなアドバンテージを得られるので、できる限り活用しよう。